

大津企業景況調査報告書

(第77回)

平成29年 4月～ 6月期 実績

平成29年 7月～ 9月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成29年4月～6月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 142 社に F A X 方式による調査

2. 調査企業

産 業 別	調査対象企業数	有効回答企業数	回 収 率
製 造 業	15社	9社	60.0%
卸 売 業	12社	12社	100%
小 売 業	35社	28社	80.0%
サービス業	55社	39社	70.9%
建 設 業	25社	15社	60.0%
合 計	142社	103社	72.5%

3. 調査期間

調査対象期間は平成29年4月～6月とし、調査時点は平成29年6月6日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感は改善傾向が続く。先行きは前年比プラスを見込む

平成 29 年 4 月～6 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、全体の業況判断 DI（前年同期比）が昨年末にマイナス 2 ケタからマイナス 1 ケタに改善して以降、今四半期も▲7 と改善傾向が続いている。業種別では、前四半期にプラスに転じた建設業が今四半期受注が減少してマイナスになったり、前四半期マイナスになった製造業が今四半期±0（前年並）になったりとバラツキがあるが、サービス業だけは、インバウンド（訪日外国人）消費の増加等により着実に好転している。

先行きの業況判断 DI は+4 と 3 年半ぶりにプラスに転じると見込んでいる。業種別では、製造業は悪化すると見込んでいるが、他の業種は全て改善すると見込み、中でもサービス業が+23 と大幅に改善すると見込んでいる。ただし、業況改善を見込む業種においては人手不足に拍車がかかっており、雇用の逼迫が景況感改善のブレーキになる可能性がある。

□ 業況判断 DI（前年同期比）は、景況感は改善傾向が続く

「前年同期比でみた業況判断 DI（全体）」（「好転」－「悪化」）は、昨年末にマイナス 2 ケタからマイナス 1 ケタに改善して以降、今四半期も▲7 と改善傾向が続いている。業種別では、バラツキがあるが、サービス業だけは、インバウンド（訪日外国人）消費の増加等により着実に好転している。

□ 売上 DI（前年同期比）は、前年比マイナスが続くも改善。サービス業は前年比プラスに

「前年同期比でみた売上 DI（全体）」（「増加」－「減少」）は、▲5 で前年比マイナスが続いているが、マイナス幅が前四半期よりも縮小した。業種別にみると、製造業がマイナス（減少）となったが、サービス業がインバウンド消費の増加等から前年比プラスになったのをはじめ他の業種は前年比改善した。

□ 採算 DI（前年同期比）は、前年比改善が続き、サービス業では前年比プラスに

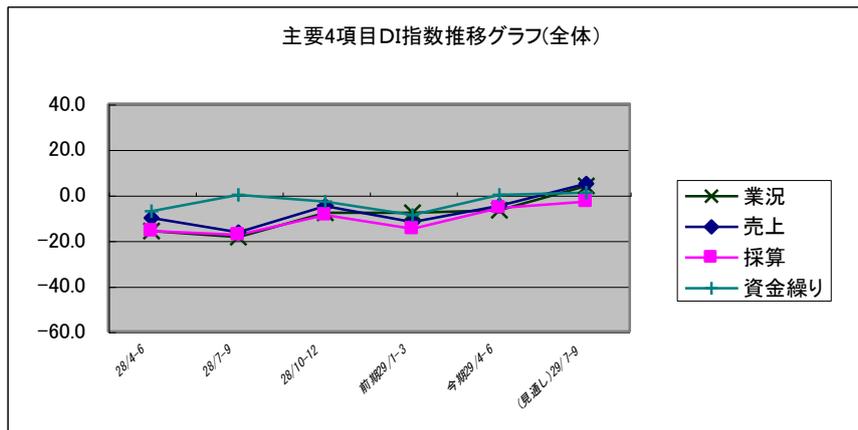
「前年同期比でみた採算（経常利益）DI（全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期▲15 から今四半期▲6 と改善している。業種別にみると、全ての業種で改善しており、特にサービス業では前年比プラスに良化した。

□ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は、前四半期から改善し、資金の借入れ易さも良化

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI（全体）」（「好転」－「悪化」）は、前四半期の▲9 から今四半期±0（不変）と改善した。長期資金、短期資金の借入易さも前四半期よりも今四半期の方がプラス（容易）と良化した。

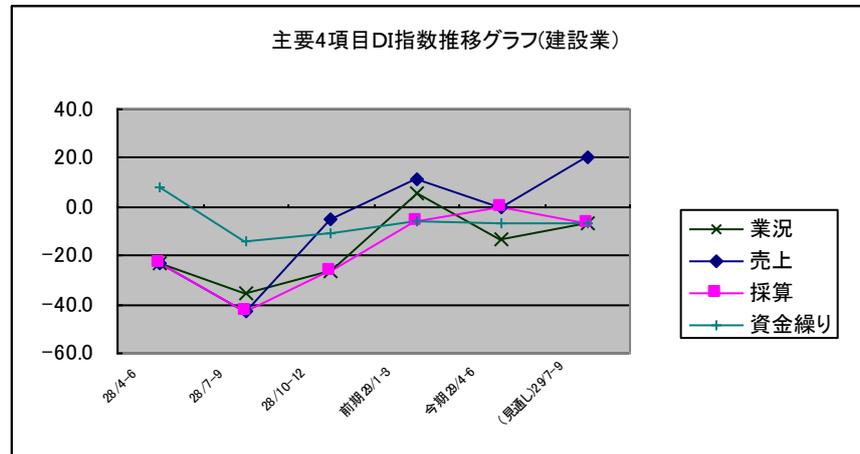
□ 従業員 DI（前年同期比）は、人員不足感が強いまま。特に非製造業で雇用逼迫

「前年同期比でみた従業員 DI（全体）」（「不足」－「過剰」）は、前四半期の+20 が今期+19 と人員不足感は強いままである。業種別にみると、受注が減少している建設業で人員過不足ないが、非製造業種では雇用逼迫に拍車がかかっている。



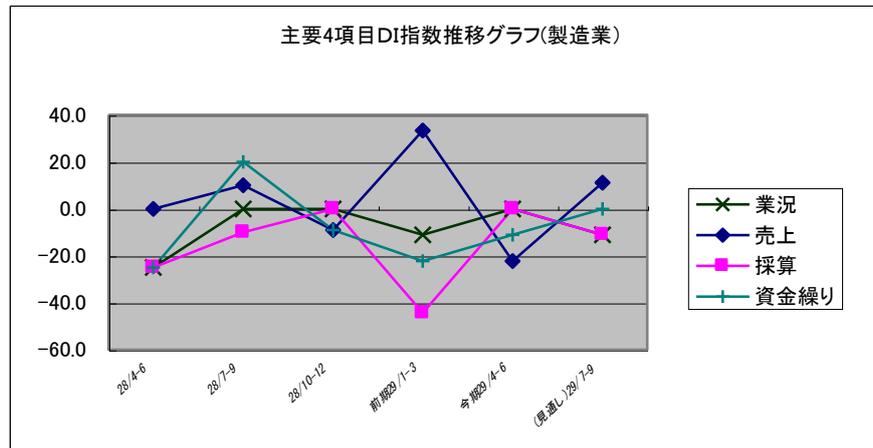
建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期に+6 と好転したものの今四半期は▲13 と悪化した。個別指標をみると「売上」が前四半期の+11 から今四半期±0 と減少し、「採算」は▲6 から±0 と改善したものの「問い合わせ」が+11 から▲20 となり、受注が減少しているとみられる。「従業員」は+22 (不足) から±0 (過不足なし) となった。



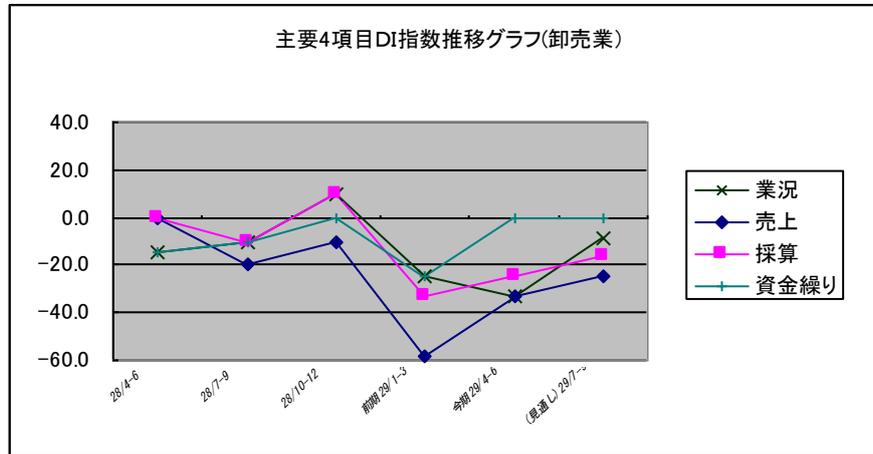
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期▲11 から今四半期は±0 (不変) と改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の+33 から今四半期▲22 と減少したが、「採算」が前四半期の▲44 から今四半期±0 (不変) と大幅に改善している。「従業員」は不足感が続いている。



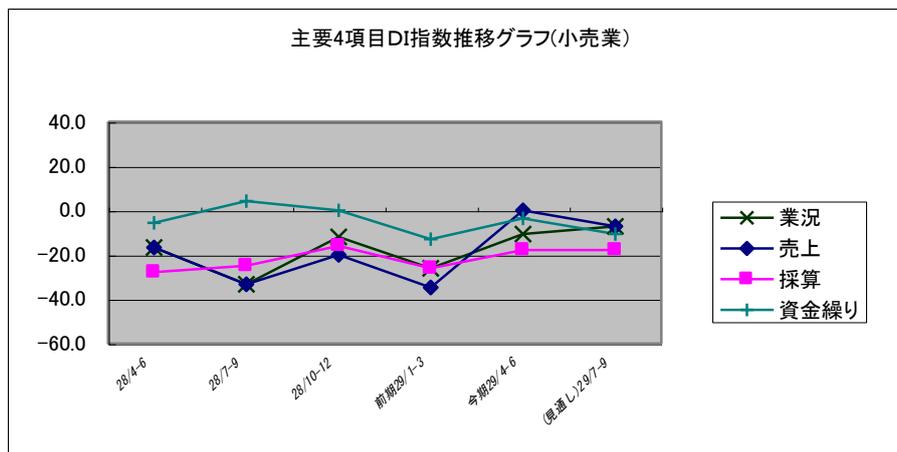
卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲25 から今四半期は▲33 と悪化が続いている。個別指標をみると「売上」は前年比マイナス（減少）が続いており、「採算」も前年比マイナス（悪化）が続いている。にもかかわらず「従業員」は不足感が続いている。



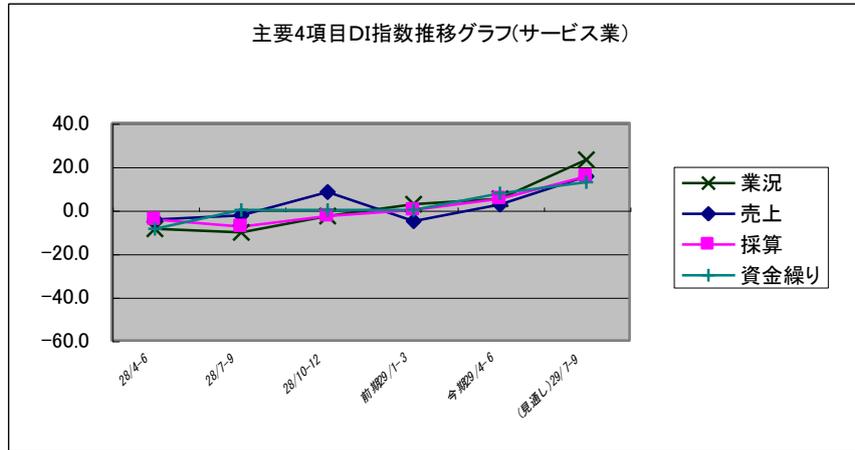
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の▲26 から今四半期は▲11 と改善した。個別指標をみると「売上」は前四半期の▲35 から今四半期は±0（不変）と改善し、「採算水準」は▲9 から±0（収支トントン）と改善した。ただし、ネット通販の増加による売上減少の影響が一部に出ているとみられる。一方、「従業員」は+17 から+25 と人員不足感が強まっている。



サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期に+3 とプラスに転じ、今四半期も+5 と 2 期連続プラスとなった。個別指標をみると「売上」は前四半期▲5 から今四半期+3 と増加に転じ、「採算」も好転した。また「従業員」は人員不足感が続いている。業況の良化はインバウンド（訪日外国人）消費の増加等によるものとみられる。



来四半期（3 ヶ月後）の「業況」DI は、今四半期の▲7 から+4 と、3 年半ぶりにプラスに転ずると見込んでいる。

個別指標をみると、「売上」が増加し「採算」も改善すると見込んでいる。業種別では、製造業が受注の減少から業況が悪化すると見込んでいるが、その他の業種は軒並み改善すると見込んでいる。特にサービス業の「業況」DI は、引き続きインバウンド（訪日外国人）消費の増加等により今四半期の+5 から+23 と大幅に改善すると見込んでいる。ただし、業況改善を見込む業種においては人手不足に拍車がかかっており、雇用の逼迫が景況感改善のブレーキになる可能性がある。

3 ヶ月後の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は全体で 20% である。業種別にみると、製造業が最も高く 33%、建設業が 31%、サービス業が 23%、小売業が 18% である。投資企業の投資内容の割合は、「更新投資」が 57% で最も多く、「合理化・省力化」が 23% である。投資方針は、投資内容から「計画通り」が 65% と高くなっている。

景気の改善傾向の割には、設備投資計画が少ないのは、米国のトランプ政権運営の行方や世界的な金融緩和政策の見直し時期、世界的な地政学的リスクの常態化等から、景気の長期展望が読み難い中で、投資に慎重になっているためと史料される。

田中マネジメント事務所
MBA・中小企業診断士 田中清行

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・ 人手不足で困って折ります。(小売業)
- ・ 琵琶湖産鮎の不漁により原価の上昇。(小売業)
- ・ 1～3月は特殊事情が有り比較できません。(小売業)
- ・ ネット通販傾向が多大な為、一般消費者への小売りが減少で対策考慮中。(小売業)
- ・ 働き方改革と言っても、簡単に労働環境改善という目に見える話なら「物」みたいな見方になるが「心」の部分が、考え方を考える事が本質。大手企業のようにはいかない。この負担を考えると安倍首相そんなに簡単に言わないでと思う。(小売業)
- ・ 政治スキャンダル問題よりも将来の国際情勢を考え、早急に準備すべきである。例：円高・原油高・朝鮮半島問題・原発の安全性・日本へのテロ攻撃・サイバー攻撃 (サービス業)
- ・ お客様のニーズにお答えできるようなサービスを心がけたいと思います。(サービス業)
- ・ ロングランでの見通しがしにくい。(建設業)

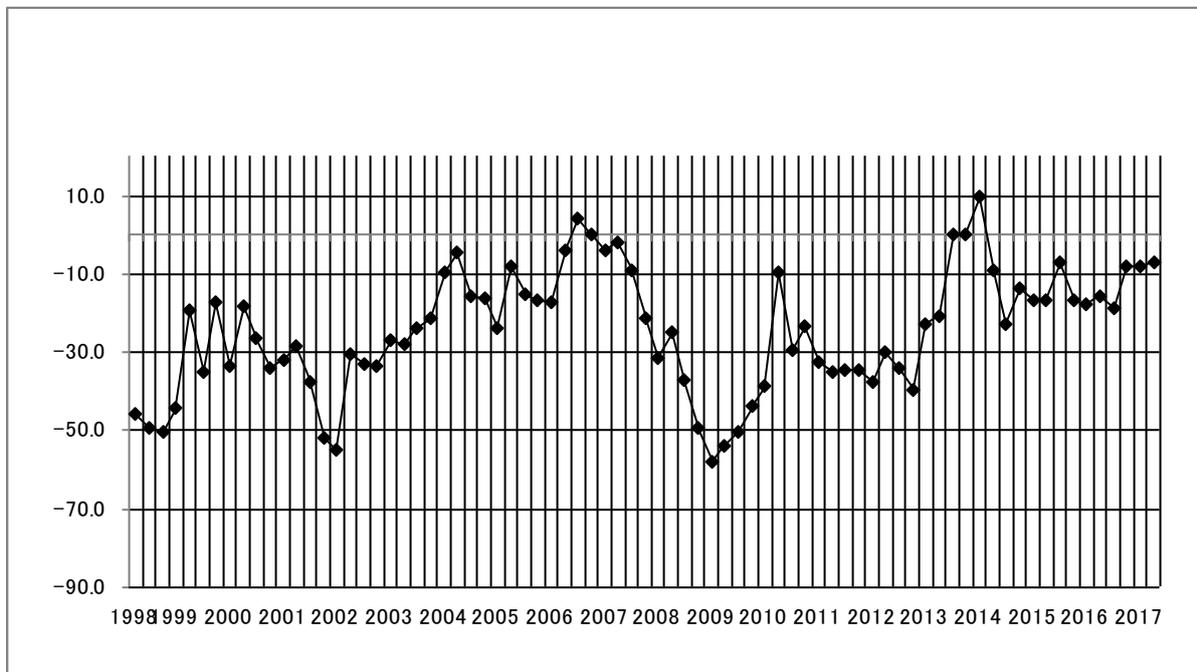
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	▲6.8	3.9	▲4.9	4.9	▲5.8	▲2.9
建 設 業	▲13.3	▲6.7	0.0	20.0	0.0	▲6.7
製 造 業	0.0	▲11.1	▲22.2	11.1	0.0	▲11.1
卸 売 業	▲33.3	▲8.3	▲33.3	▲25.0	▲25.0	▲16.7
小 売 業	▲10.7	▲7.1	0.0	▲7.1	▲17.9	▲17.9
サービス業	5.1	23.1	2.6	15.4	5.1	15.4
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見 通 し
全 体	8.7	20.4	▲12.6	▲2.9	19.4	23.3
建 設 業	26.7	33.3	▲20.0	▲13.3	0.0	6.7
製 造 業	11.1	▲11.1	▲11.1	▲22.2	11.1	11.1
卸 売 業	▲25.0	16.7	▲16.7	8.3	33.3	41.7
小 売 業	0.0	0.0	▲17.9	▲10.7	25.0	28.6
サービス業	17.9	38.5	▲5.1	7.7	20.5	23.1
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し
全体	0.0	1.0	2.9	1.9	6.8	5.8
建設業	▲6.7	▲6.7	0.0	0.0	13.3	6.7
製造業	▲11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	11.1
卸売業	0.0	0.0	▲8.3	▲8.3	0.0	0.0
小売業	▲3.6	▲10.7	7.1	7.1	7.1	7.1
サービス業	7.7	12.8	5.1	2.6	5.1	5.1
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



※縦目盛り軸は、全業種の業況DI指数を表しています。横目盛り軸は、調査年を西暦で表しています。

大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜 2 番 1 号

コラボしが 21 9 階

TEL : 0 7 7 - 5 1 1 - 1 5 0 0

FAX : 0 7 7 - 5 2 6 - 0 7 9 5

URL <http://www.otsucci.or.jp/>